

製品名: ATP5D ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07327**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	ATP5D
別名	ATP5D; ATP synthase subunit delta; mitochondrial; F-ATPase delta subunit
遺伝子 ID	513.0
SwissProt ID	P30049
免疫原	抗血清はヒト ATP5D 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 61-110

背景

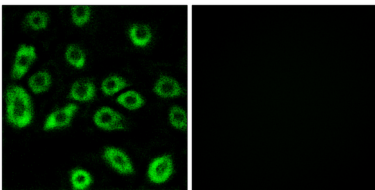
この遺伝子は、ミトコンドリア ATP 合成酵素のサブユニットをコードします。ミトコンドリア ATP 合成酵素は、酸化的リン酸化反応中に内膜を横切る電気化学的プロトン勾配を利用して ATP 合成を触媒します。ATP 合成酵素は、可溶性触媒コアである F1 と、プロ

トンチャンネルを構成する膜貫通成分である Fo という、2つの連結した多サブユニット複合体で構成されています。ミトコンドリア ATP 合成酵素の触媒部分は、5つの異なるサブユニット (α 、 β 、 γ 、 δ 、 ϵ) で構成され、 α サブユニット3個、 β サブユニット3個、および他の3つのサブユニットを代表する1個という化学量論で組み立てられています。プロトンチャンネルは3つの主要なサブユニット (a、b、c) で構成されています。この遺伝子は、触媒コアの δ サブユニットをコードします。同じアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能: ミトコンドリア膜 ATP 合成酵素 (F(1)F(0) ATP 合成酵素または複合体 V) は、呼吸鎖の電子伝達複合体によって生成される膜を横切るプロトン勾配の存在下で、ADP から ATP を生成します。F 型 ATPase は、膜外触媒コアを含む F(1)と膜プロトンチャンネルを含む F(0)の2つの構造ドメインで構成され、中心茎と周辺茎で結合しています。触媒反応の間、F(1)の触媒ドメインにおける ATP の代謝回転は、中心茎サブユニットの回転機構を介してプロトンの移動と連動しています。複合体 F(1)ドメインの一部であり、複合体回転要素の一部である中心茎の一部です。中央の茎が周囲の $\alpha(3)\beta(3)$ サブユニットに対して回転することで、 β サブユニット上の3つの独立した触媒部位で ATP の加水分解が起こります。類似性: ATPase イプシロン鎖ファミリーに属します。サブユニット: F 型 ATPase は、触媒コアである CF(1)と膜プロトンチャンネルである CF(0)の2つの構成要素から構成されています。CF(1)には、 $\alpha(3)$ 、 $\beta(3)$ 、 $\gamma(1)$ 、 $\delta(1)$ 、 $\epsilon(1)$ の5つのサブユニットがあります。CF(0)には、a、b、c、d、e、f、g、F6、8 (または A6L) の9つのサブユニットがあるようです。

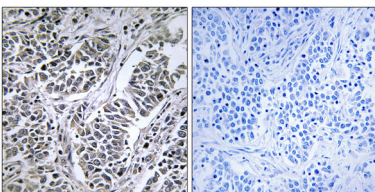
研究分野

酸化的リン酸化、アルツハイマー病、パーキンソン病、ハンチントン病、

画像データ



ATP5D 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



ATP5D 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。